

## 臨床検査「パニック値」運用に関する提言書

2021年12月25日

一般社団法人 日本臨床検査医学会

### 1. 現状と課題

「パニック値 (panic value)」とは、「生命が危ぶまれるほど危険な状態にあることを示唆する異常値」で、直ちに治療を開始すれば救命しうるが、その把握は臨床的な診察だけでは困難で、検査によってのみ可能とされている (Lundberg GD 1972)。日本医療機能評価機構からの医療安全情報 (No.111、2016年2月) で、「パニック値」の緊急連絡の遅れが患者の治療の遅れにつながった事例が紹介されたように、その名称は既に臨床現場に普及しているが、「(超) 緊急連絡値」や「critical value」など、その意味を正確に表すような名称に見直す必要性も指摘されている。また、日本臨床検査医学会チーム医療委員会は、2017年に全国「パニック値」アンケート調査を実施し、「パニック値」が設定されている検査項目やその閾値レベルについて医療機関で統一されていないこと、さらには、「パニック値」は臨床検査部門から診療側に速報値として様々な手段で連絡されているものの、緊急連絡体制、臨床的対応、カルテ記載、履歴管理などが医療機関で統一されていないことを明らかにした。

このような現状から、日本臨床検査医学会チーム医療委員会は、「パニック値」の一覧 (別表) を例示するとともに、その運用については、医療安全対策の一環としてチームで一体となって確実に推進することを求める必要があると考えた。そこで、全国の医療機関に向けて、以下の提言を行う。

### 2. 提言の内容

1) 臨床検査部門からの「パニック値」の連絡 (発信) があつた際に、これに対して、担当医師はどのような対応をしたかを履歴として残すために、カルテに記録する。この際に、検査値を確認したか否かはもとより、どのくらいの時間でどのように対応し、どのようなアウトカムになったかの観点も重要になる。

2) 臨床検査部門で「パニック値」を担当する臨床検査技師に電子カルテのアクセス権限を制限している医療機関の場合、「パニック値」のやりとりが担当医師と容易にできるよう、そのアクセス権限を臨床検査技師にも付与する。

3) 「パニック値」に詳しい臨床検査技師を、「パニック値」に対する診療現場での担当責任者として任命し、機関内のしかるべき会議で「パニック値」の件数や担当医師の対応内容などについて適宜報告する体制を構築する。

4) 「パニック値」は既に普及している医学用語ではあるが、国際的には「critical value」のような名称に変更する動きがあり、国内でも名称変更を検討すべきである。しかし、混乱を避けるために、当面は、「critical value (いわゆる「パニック値」)」のように併記して、用語使用の啓発を図ることが望ましい。

5) 「パニック値」の設定や報告体制の構築は医療機関の実情に合わせ、検査部門と診療科・医療安全管理部門と協働して行うことが望ましい。

6) 医療機関内のみならず、機関外、例えば在宅医療の現場における臨床検査に関しても、「パニック値」の適切な運用を検討する。

### 3. 提言に基づいた運用の長所

提言に基づいた「パニック値」の運用は、

- ・安心で安全な医療の提供に寄与できます。
- ・医療の質の担保に寄与できます。
- ・チーム医療実践の証しになります。

### 4. 意見提出先

広くご意見をお寄せください。

連絡先：日本臨床検査医学会事務局

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-2 UI ビル 2F

E-mail: office@jslm.org

【別表】

表. Critical Value (いわゆるパニック値) #1 の例

| 項目       |                               | 低 値                          | 高 値                                    | 緊急報告項目の例#2 |
|----------|-------------------------------|------------------------------|--|------------|
| 血液生化学検査  | グルコース                         | 50 mg/dL                     | 350 mg/dL (外来)<br>500 mg/dL (入院)       | ○          |
|          | ナトリウム (Na)                    | 115 mmol/L                   | 165 mmol/L                             |            |
|          | カリウム (K)                      | 1.5 mmol/L                   | 7.0 mmol/L                             | ○          |
|          | クロール (Cl)                     |                              | 120 mmol/L                             |            |
|          | カルシウム (Ca)                    | 6.0 mg/dL                    | 12.0 mg/dL                             |            |
|          | 尿素窒素 (UN)                     |                              | 80 mg/dL                               |            |
|          | 総ビリルビン                        |                              | 20 mg/dL (新生児)                         |            |
|          | 総蛋白                           | 4.0 g/dL                     | 10.0 g/dL                              |            |
|          | アルブミン                         | 2.0 g/dL                     | 6.0 g/dL                               |            |
|          | 尿酸                            | 1.0 mg/dL                    | 10.0 mg/dL                             |            |
|          | AST                           |                              | 300 U/L                                |            |
|          | ALT                           |                              | 300 U/L                                |            |
|          | LD (LDH)                      |                              | 1,000 U/L                              |            |
|          | アミラーゼ                         |                              | 1,000 U/L                              |            |
|          | クレアチニン (Cr)                   |                              | 急性腎不全 : 3.0 mg/dL<br>慢性腎不全 : 8.0 mg/dL |            |
|          | クレアチンキナーゼ (CK)                |                              | 5,000 U/L                              |            |
|          | コリンエステラーゼ (ChE)               | 20 U/L                       |  |            |
| 乳酸       |                               | 5.0 mmol/L                   |  |            |
| 浸透圧 (血清) | 255 mOsm/kg H <sub>2</sub> O  | 330 mOsm/kg H <sub>2</sub> O |  |            |
| 血液ガス     | pH                            | 7.20                         | 7.60                                   |            |
|          | PaCO <sub>2</sub>             | 20 Torr                      | 70 Torr                                |            |
|          | PaO <sub>2</sub>              | 40 Torr                      |  |            |
|          | BE                            | - 10 mmol/L                  | 10 mmol/L                              |            |
|          | HCO <sub>3</sub> <sup>-</sup> | 14 mmol/L                    | 40 mmol/L                              |            |
| 血液検査     | 白血球数 (WBC)                    | 1,500/μL                     | 2 万 /μL または芽球の出現                       |            |
|          | ヘモグロビン (Hb)                   | 5 g/dL                       | 20 g/dL                                | ○          |
|          | 血小板数 (Plt)                    | 3 万 /μL                      | 100 万 /μL                              | ○          |
|          | プロトロンビン時間 (INR)               |                              | 2.0 (ワルファリン治療時は 4.0)                   | ○          |
|          | フィブリノゲン                       | 100 mg/dL                    | 700 mg/dL                              |            |
|          | FDP                           |                              | 20 μg/mL (施設により 20~100)                |            |
| 髄液検査     | 糖                             | 20 mg/dL                     |  |            |
|          | 細胞数                           |                              | 200/μL                                 |            |

#1 Critical Value (いわゆるパニック値) : 基準範囲から極端に逸脱し、放置されると重大な疾病もしくは病態の存在が見逃され、患者の予後に著しい悪影響を与えるため、担当医への迅速かつ確実な報告が必要となる検査値。

#2 Critical Value (いわゆるパニック値) の中で、特に緊急対応 (経過観察や処置を含む) を要するため、直ちに担当医への報告が必要となる検査項目の例。これら検査項目の選択や基準値の設定は、診療科医師と相談し医療機関ごとに運用されることが望ましい。

参考 : 1) Lundberg GD. When to panic over abnormal values. Med Lab Obs 1972; 4: 47-54.

2) The Clinical Laboratory in Modern Health Care ハリソン内科学第 18 版 e53